

[医師・医療スタッフの皆様へ]

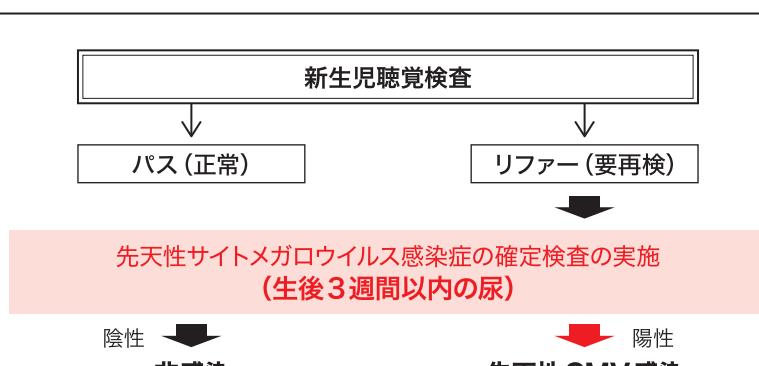
新生児聴覚検査でリファー(要再検)の場合は 聴力の精密検査の前に先天性CMV感染の 確定検査の実施が強く推奨されています¹⁾

新生児難聴の主な原因のひとつに、先天性サイトメガロウイルス感染があります

妊娠中のお母さんがサイトメガロウイルス(CMV)に感染すると、赤ちゃんが何らかの障がいを持って生まれてくることがあります。その障がいのひとつに「難聴」があります。出生時の聴力障害の原因として、遺伝性の次に多いと考えられているのが先天性CMV感染によるものです。

新生児聴覚検査でリファー(要再検)の場合は、 生後3週間以内に先天性CMV感染の確定検査を実施することが望まれます

CMV感染の検査は、生後3週間以内に赤ちゃんの尿を採取することで診断します。生後3週間を超えると、先天性感染と後天性感染の区別が困難となるため、なるべく早く実施することが望されます。初回の聴覚検査の結果でリファー(要再検)の場合は、確認の再検査も行う必要があります。



聴力障害があるかどうかは、聴力の精密検査を受けなければわかりません。

子ども家庭庁成育局母子保健課長、「新生児聴覚検査の実施について」の一部改正について
【別添2】新生児聴覚検査の流れ、令和5年10月3日(こ成母第277号)より一部改変



バルガンシクロビル(バリキサ®)は
ディスペンサーを用いて、1日2回、
赤ちゃんに飲ませるドライシロップ剤です

先天性CMV感染だった場合、 抗ウイルス薬治療という選択肢があります

赤ちゃんの体内でCMVが増殖するのを抑える抗ウイルス薬バルガンシクロビル(バリキサ®)を服用することで、難聴の改善や進行の抑制などの効果が期待できます。一方、白血球(好中球)減少などの副作用もあります。保険診療で行える治療ですので、小児科の主治医と相談のうえ進めてください。

1) 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業-BIRTHDAY 症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究班(編)、「先天性サイトメガロウイルス感染症診療ガイドライン2023」、診断と治療社、東京、2023年10月